

おわりに

昨今の急速かつ不安定な社会情勢の変化の中で、いよいよ、来年度から学校週五日制の完全実施となります。教育においてはこれまでの在り方を見直し、質的変換を図るべく、新しい学校づくり、特色ある教育活動を推進することが各学校に求められています。

この様ななか本学教育学部附属四校園は、昨年度より3年間の文部科学省研究開発学校の指定を受け、『『今を生きる』教育の充実と創造』を四校園共通の研究主題のもとに、各校園が連携して発達段階に応じた学びの姿を明らかにし、各校園間の「接続」と「共生」を重視した一体的な教育課程の研究開発に取り組んでいます。

本研究を推進するに当たり、研究組織として、附属四校園長を頂点にし、その下に各校園の副校園長と教務主任、研究主任で組織された研究推進委員会、各研究主任と研究副主任で組織された研究企画委員会、さらに、全教職員による各校園別研究会、四校園全体研究会、領域別研究会を持ち、特に、度重なる研究企画委員会を中心に、四校園での研究授業をもとにした領域別研究会を精力的にすすめてきました。

また、本学内5名、学外5名、計10名の運営指導委員の先生から本研究の内容や方向性をご指導いただきながら進めてきました。

昨年度は研究領域として「発達研究」、「接続A」、「接続B」、「共生」の四領域を立ち上げ、「発達研究」では、発達に即した学びの系統や評価の在り方を、「接続A」では、幼稚園と小学校低学年との接続の在り方を、「接続B」では、小学校高学年と中学校との接続の在り方を、「共生」では四校園の子どもたちの共生の在り方を追求することをねらって、教員が相互に授業参観や時には他校園で授業もして交流を図りました。このことは、附属校園でありながら、これまで互いの教育研究に十分な関心を払ってこなかった現状を大いに改善できたことや、それぞれの子どもたちの様子を実際に見ることにより、ある程度の共通理解が図れたこと、また、「発達段階における学びの系統性」を図表にまとめることができました。

今年度は、昨年度の研究成果を踏まえ、それぞれの校園の「接続」と「共生」を重視した教育課程の開発とその実践の具体化をめざし、「情報・コミュニケーション」、「思考」、「表現」、「総合」の研究領域を立ち上げました。昨年度と同様に全教員がどこかの領域に所属し、研究授業を中心とする領域別研究会に多くの時間とエネルギーを費やし、ここに、それぞれの領域における幼稚園・小学校・中学校の12年間、養護学校の小学部・中学部・高等部の12年間を一貫する教育課程とその実践の一部をまとめることができました。

研究対象となる内容の膨大さに加え幼稚園、小学校、中学校と、養護学校の校舎が約6km離れているため共同研究としての場所や時間の設定は工夫を要するものとなりました。本研究には、まだまだ不十分な点が多々あります。皆様のご意見ご指導のもとに、研究をより確かなものにしていきたいと考えていますので、どうかよろしく願いいたします。

最後に、本研究を進めるにあたり、運営指導委員として、公私ともにご多忙の中、精力的にご指導いただきました、関西大学教授 水越 敏行先生、京都女子大学教授 北尾 倫彦先生、宮城教育大学教授 清水 貞夫先生、名古屋大学教授 安彦 忠彦先生、滋賀県教育委員会学校教育課参事 橋本 源之助先生、本学教授 住岡 英毅先生、相良 敦子先生、黒田 吉孝先生、近藤 文良先生 本学助教授 堀江 伸先生をはじめ、多くの方々にお世話になりました。重ねてお礼申し上げますとともに、今後とも皆様方の更なるご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成13年11月

滋賀大学教育学部

附属幼稚園	副園長	年岡潤美
附属小学校	副校長	安田正利
附属中学校	副校長	内藤正規
附属養護学校	副校長	片岡儀平